



東京都指定旧跡

水野監物邸跡

所在地 港区芝五丁目二十番二十号
指 定 昭和十八年三月十六日

この地は赤穂事件で、吉良邸討入りに加わった大石内蔵助良雄ら四十七人のうちの九人が預けられた三河岡崎藩水野家三田屋敷の一部である。水野家は、のちに天保の改革を主導する水野忠邦を輩出した譜代大名の家柄で、水野監物忠之（一六九一―一七三二）は、第四代藩主である。元禄十四年（一七二九）三月浅野内匠頭長矩の吉良上野介義央に対する殿中刃傷事件の折りには、幕命により鉄炮洲の赤穂藩邸（中央区明石町の聖路加国際病院）に赴き混戦を防いだ。

同十五年（一七〇二）十二月十五日元赤穂藩士たちのお預けが決まると、直ちに江戸・結城士百五十余人と留守居小川九郎右衛門を請取人として仙石伯耆守、堀（港区虎ノ門二の八）に達わした。間重治郎光興、奥田貞右衛門行高、矢頭右衛門七敷兼、村松三大夫高直、間瀬弥九郎正辰、菅野和助常成、横川甚平宗利、三村次郎左衛門包常、神崎與五郎則休の九人は、この屋敷へ収容された。翌十六年二月四日幕府の敷きにより九人は、この屋敷で自刃し、武士の本懐を遂げた。

水野家は細川家とともに元赤穂藩士の取扱は丁重で世評もよく、「細川（越中守綱利）の水（水野監物）流れは清けれど、ただ大海（毛利甲斐守綱元）の沖（松平越中守定直）が濁れる」という諺がその状況をよく伝えている。

平成十三年三月三十一日 設置

東京都教育委員会

文化財を大切に

作品番号：21400105

作品タイトル：水野監物邸跡（東京都指定旧跡）

作家：菊地 一彦

キャプション：赤穂義士、間十次郎ら九名、三河岡崎藩中屋敷跡、慶應仲通り脇

コレクション：OPO

ソース：

撮影地：東京都港区田町

撮影年月日：2007/1/27

学術名：

クレジット表記：(c)OPO / Artefactory

モデルリリース：なし

プロパティリリース：なし

ピクセル数：4368px × 2912px

印刷サイズ：31.7cm × 21.1cm

データサイズ：8.1MByte

ファイル形式：JPEG